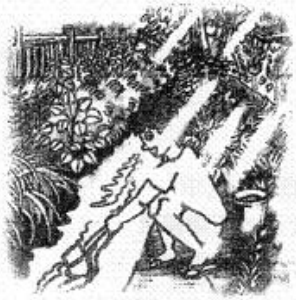


せせらぎ Message １９

こだいら 水と緑の会
２０１４ ４・９発行

縄文人のブリコラージュ

馬場政孝

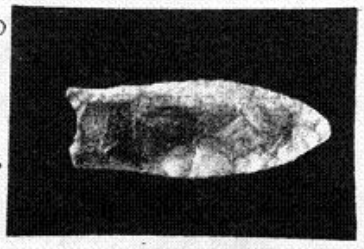
４月の初めに玉川上水沿いを歩くとスミレや春蘭と共になんとも可憐なカタクリの花が見られる。カタクリは落葉広葉樹林の林床に生育するが、7～８年経たないと花は咲かないと言われている。地下深くにイモ（鱗茎）がつくられ、そこから葉芽、花芽が伸びてくる。花が咲いて結実したあと地上部は枯れて姿を消し、鱗茎は秋まで休眠状態となる。氷河時代を生き抜いた植物の独特な生活スタイルである。

このカタクリを見るたびに、縄文時代に生きていた人たちのことに思いが至る。カタクリの鱗茎は小さなものだがデンプン質が豊富で食用になり、かつては片栗粉をこれから作っていた。縄文人はイノシシやシカなどの動物、栗やトチの実、椎の実、ドングリなどの堅果、カタクリ、クズ、ユリの根、山芋、ワラビの根などの地下茎を主な食料にしていた。海沿いでは貝や魚が捕獲されたのはもちろんである。今日、トチ餅、ワラビ餅、クズキリなどが食されているが、これらは縄文文化の名残であろう。堅果や根茎からデンプンを抽出するのは大変な手間と独特の技術が必要である。トチの実やドングリはタンニンがあり、渋を抜かなければ食べられない。乾燥して粗割りしたものを灰汁に浸け、そのあと水晒し法によって渋を抜く。これを細かく砕いて水につけてデンプンを抽出する。ドングリやトチの実は大量に取れ、デンプン粉は保存がきくから、このデンプン抽出技術の開発は縄文人の食料事情を大変安定的なものにしたと考えられる。

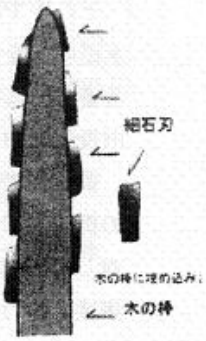
小平は、江戸時代初期に小川用水が引かれ初めて人が住むようになって小川村がつくられ、そこから今の小平市に発展した、と考えられているが実はこれは正しくない。今から３万年前頃にはこの地に人はすでに生活しており、その狩猟採集生活は長きに渡った。石神井川の源流域が今の鈴木小学校あたりにあり、その周辺の広大な地域から石器や土器などが見つかっている。これが昭和４９年に発見された鈴木遺跡である。この地で定住したことを示す住居跡は見つかっていないようであるが、獲物を求めて一定期間この地で生活し、地面を浅く掘って掘立小屋を建てて収穫物を調理した跡は残っている。残された陥穴の大きさからハンティングの対象になったのはイノシシ、シカの類のものと推測される。

鈴木小学校の新小金井街道をはさんだ対面に小平市鈴木遺跡資料館があり、石器を中心とした発掘物が展示されているが、これを見て驚いたことがある。石器の中に細石刃が含まれていたことと、黒曜石製石器がかなり含まれていたことである。

細石刃は旧石器時代末期にシベリアのマンモスハンターが使い始めたもので、木や骨の尖った先端部に鋭い刃部を持つ２～３cmの石片を多数埋め込んだ、一種の槍である。アメリカのマンモスハンターはクローヴィス尖頭器という独特の槍先を使用しており、

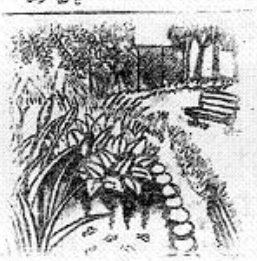


クローヴィス尖頭器



細石刃はシベリアと日本でしか見つかっていない。シベリアからマンモスを追って陸続きの北海道に渡ってきた人たちが北海道の地に細石刃を伝えたようであるが、この技術が氷河期にも海のままだった津軽海峡を超えて関東にまで伝播していたことを示している。関東地方にはマンモスはいなかったようであるが、南方からナウマンゾウが来ており、その化石が東京都や神奈川県で見つかっている。また、黒曜石は小平周辺では産地がなく、長野県の和田峠、箱根、神津島あたりから交易によってもたらされたものであるという。1万年以上も前の時代にはるか遠方の物産が交易されるネットワークが存在していたことを示しており、信じがたい思いである。

石神井川の源流部が東に1キロ程移動した結果、小平の地で人が生活した痕跡が消えている。やはり、地下水位が深くて水が得られなかったのが人が住めなかった原因のようである。



市の緑化推進委員会に参加して

船津好明

小平市の委員会に緑化推進委員会というのがある。市の行政に関して市民の意見を受け止める公式の会議で、1期2年、現在の期は第13期、平成24～25年度で26年3月に終了した。

委員は市民からなり、事務局は市の都市建設部水と緑と公園課、ここが委員会の主管課でもある。委員は13名、うち市民団体の推薦等による者が7名、市の公募による者が6名で、私は当会（こだいら水と緑の会）の推薦による。

市民の代表として市の行政などに係わる、より上級の組織としては市議会がある。議員は市民の選挙で選ばれるが、緑化推進委員は、選ばれ方はともかく、市の緑化推進に貢献するという点で、役割を重く感じた。

委員会の検討主題は、主管課である水と緑と公園課の業務に関係するもので、委員会で決める。検討結果は市長への提言という形にまとめられる。今期2年間は会議が8回開かれた。主題は「地域資源活用のまち『こだいら』防災に活かす用水と雑木林」で、用水や雑木林を、大規模災害に備えて活用すべき具体策をまとめることとなった。

その中で私は、現に水が流れていない用水路（主に市の東部）が多くあり、災害時に用水路の水を使うためには、全用水路に常時水を流す必要があると主張した。その結果、提言書の中に項を立てて盛り込まれたのはよかったと思う。提言書は平成26年3月27日に、市役所において委員長から市長に手渡された。

委員会で印象に残った委員の発言を思い出すと、市（事務局）に対してだが、過去多くの提言がなされたが、提言は実現していないのではないか、ということであった。これに対して市は、提言は直ちには実現されないとしても、時を経て実現したり、提言に添った事業等が行われることもあり、その意味で結構実現している、とのことであった。

平成25年度活動報告

4月・・・東京ガスの助成金にて「小平の用水路」印刷・発行
5月・・・3小出前授業
　　グリーンフェスティバル参加
6月・・・全国一斉身近な水質検査参加
7月・・・3小学習発表会鑑賞
　　大沼公民館主催ジュニア講座参加
9月・・・セブン・イレブンの助成金にて「小平の用水路」副読本印刷・発行
10月・・・鈴木・14小・9小出前授業
12月・・・公開学習会開催
　　1、「新堀用水の話」　講師：矢崎　功氏
　　2、「小川村が出来た頃」　講師：蛭田　廣一氏

この他に毎月第1・3水曜日午前にグリーンロード親水公園の整備や小川緑地の野草の維持などを行っています。第4水曜日は定例会。

平成25年度会計報告

当会の事業およびそれに伴う会計を、下の通り報告します。

期間：平成25年4月1日～26年3月31日　　会計担当　船津好明

収入	金額（円）	支出	金額（円）
前年度繰越金	210,497	活動費	15,603
会費等	42,000	通信費	10,788
謝礼	93,557	謝礼	40,000
助成金	500,000	冊子作成費	525,000
冊子売上げ金	600	手数料	560
預金口座設定	1,000	預金口座設定	1,000
預金利子	27	次年度繰越金	254,730
合計	847,681	合計	847,681

平成25年度末残高　254,730円。うち現金44,441円、三井住友銀行預金　210,289円。

監査報告

諸帳簿に基づき監査した結果、会計報告は適正かつ妥当であると認めます。

平成26年4月2日　　監事　田中稔

古文書に見る
小平に最初の用水路ができた経緯

船津好明

小平には自然の川はないが、人工の用水路がある。これは江戸時代の明暦２年（1656）、小川九郎兵衛よって作られた。根拠となる古文書（下記）は小平市立図書館にある。

当時の幕府は、多摩地域の有力者九郎兵衛に、この地域の新田開発を指示した。新田というのは水田のことだけではなく、畑も含まれる。広い意味で農地と考えてよい。九郎兵衛が指示を受けた幕府とは江戸城のことではなく、この辺り一帯を管轄する役所（代官所）のことである。九郎兵衛は岸村（今の武蔵村山市岸）の人だが、新田開発のためには先ず飲み水が必要で、できて間もない玉川上水から小平に水路を引くことが必要である、と役所に願い出て認められた。費用は九郎兵衛の負担である。新田開発が必要という役所の方針を受けて、飲み水の必要性を願い出た点が注目される。

江戸に幕府ができて、漸く世の中が落ち着き、人口も増えて食糧増産の必要性が高まってきて、各地で新田開発が進められるようになった。幕府が新田開発を国策として、日本橋に高札を立てて公示したのが享保７年(1722)年であるから、九郎兵衛が指示されたのはそれよずっと前になる。小平各地で新田開発を願い出たのは、九郎兵衛より後の時代で、地名も○○新田と呼ばれた。この地名は後代長く続いたが、昭和 37 年（1962）、住居表示の変更のため「新田」という表示は使われなくなった。

九郎兵衛が役所に願い出たのは文書に依ったであろうから、その文書を捜したが現存しないことが分かった。しかし小川家に、九郎兵衛から４代目の弥次郎が、当時の役所から用水路ができた経緯を問われて回答した文書が残っていることが分かり、その中に九郎兵衛のことが書かれている。回答時期は享保 16 年（1731)4 月で、九郎兵衛の頃（1656 年）より 70 数年後である。これが現存する文書で一番古いもののようである。

残っている文書は弥次郎が役所に提出した書面そのものではなく、その控えである。役所に提出する書類の控えを取っておくのは、今も昔も変わらない。当時は複写機のようなものはないから、毛筆で正本を書いた後、もう一度毛筆で書いて控えとしたものであろう。当時を知る拠り所として貴重に思う。

根拠とした古文書

小川家文書　195（複写）K１　15 頁　K-1-7

小平市史料集　第 24 集　玉川上水と分水２

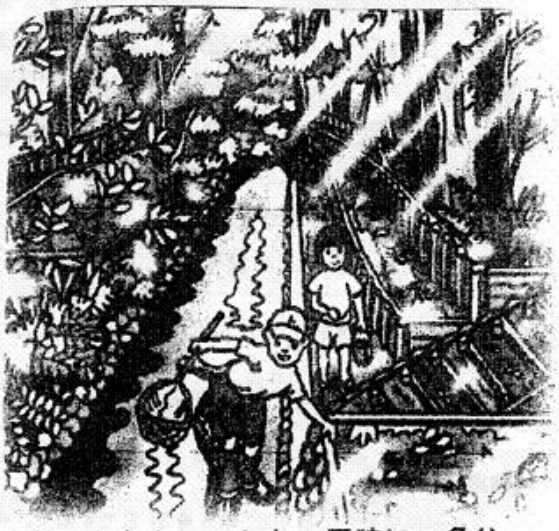
子供たちに教えられ

田中　稔

昨年（平成25年）、60数年ぶりに小学校に行く機会が得られた。これは、水と緑の会の活動の一環である小学校への出前授業に参加させていただいたことで実現したものであった。

市内の数校の小学4年生の特別授業で、「小平の用水路」をテーマにして、生物多様性を子供たちに話をすることで、自分自身も教えられ勉強することができたのでした。

なにしろ、今まで大人相手の会話しか経験がなく、小学生にどう話をしていいのか、何をテーマに沿って分かりやすく語ることが出来るのか、不安でいっぱいでした。当会が作成したパンフレットをもとに、市が編纂した市史等を参考にした、にわか勉強の知識で子供たちに話をしたものの、冷や汗隠した授業で一応終えることが出来ました。



でも、生徒からの質問は鋭い事柄が多く、その場で的確に答えることができない事項もあって困惑したこともありました。例えば、小平に用水が出来て人口が徐々に増加してくると当然病気になる人も多くなってくるが、「そういう場合は誰が治療するのですか、お金はかかるのですか」との疑問に対して、前段の私はさっと漠然と話をしたが、具体性に欠け、これではよく分からずと質問になったのでした。具体的に話をする難しさと、知識のレベルアップの必要性を教えられたのでした。同時に、多分質面攻めの子供たちを教える先生方に改めて感心したものでした。

小平には、まだまだ豊かな自然が残っています。玉川上水・小川用水から始まった村づくりが源流となって今日に至る間、長きに亘る環境保全への取り組みが自然を守ってきたのでした。

今これを支えているのは、行政であり、農業経営者であり、各種ボランティアの方々、並びに市民です。でも多くは大人です。今後も継続していく上で、将来を担う子供たちが、水・緑・鳥・虫・魚等による自然との関わりに関心を持ってもらうことが何より大切なことと思います。そのためには、出前授業などで子供たちに接し、コミュニケートすることはとても意義があるのではと考

えます。

またそのために、私自身がもっともっと勉強し具体的な作業等を通じて知識を深めると共に、心ある方々に参加を呼びかけることも必要かと考えます。

多分本年も出前授業や公開学習会の機会があると思います。昨年より少しはマシになった姿で子供たちに会えるのでは、と密かに思い描いています。

機会を与えていただいた当会の先輩会員の皆様に感謝の気持ちで一杯です。

新堀用水の報告

昨年から新堀用水が止水されています。東京都の職員立会いのもと小平市が調査したところ、上水公園のテニスコートの手前、これまで暗渠となっている箇所のコンクリート製の土管が破損して亀裂が生じ、流水が地下に吸い込まれることが判明しました。今年5月には修復工事が開始され、完成次第水を流すという告知板が表示されました。

「水が流れるのは少し先か。」そんな風に思っていましたら、3/25日水が流れていました。徐々に水量も増えています。これで安泰となればいいのですが。

会員募集中です。

小平で一番古い用水路を守り、小平のことをもっと知ってみませんか。

編集後記

当会が発足したのは2002年5月31日ですので、今春で12年目を迎えます。市内を自転車で走り回って用水路の実態を知り、地元の古老たちから話を聞かせていただいて昔の暮らしへの理解を深め、用水を川と呼んで大事に扱ってこられたことに頭が下がりました。市内の小学校に依頼し手作りのコピー資料で始めた出前授業も、「小平の用水路」を作成したことで広まりを見せています。会のHPも見事なものに変貌しています。会員にも変化がありました。でも私には色々な関わりに揉まれながら、ようやく会が地歩を固めてきたように思えます。今後とも会員の努力・皆様のご指導で、活動は地味ですが、内容を深めていけたらいいな、と願っております。(馬場)

発行：こだいら　水と緑の会　　イラスト：五十嵐　奈乃
問い合わせ：馬場　042-345-6772
http：//www009.upp.so-net.ne.jp/water-green/